

学校教育総合プランに沿った重点とする取り組みと評価

【返子市立池子小学校】

学校教育総合プランの柱	①	授業づくり
-------------	---	--------------

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

学校及び学年等の実態	<p>昨年度までの2年間、校内研究では、基礎的・基本的な知識・技能の習得やこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、学習意欲などの要素を意識しながら生活科・総合的な学習の時間の研究実践に取り組み、成果として、地域に密着した単元の開発や本校独自の教育課程づくりなどが挙げられた。また、昨年度の学力・学習状況調査を見ると、自ら考えたり行動を起こしたりすることに消極的であるとの結果も見えた。また、友だちとの話し合い活動には意欲的な反面、学習への深まりという点で足りないところが見受けられた。</p>	<p>算数の校内研究や学力・学習状況調査などより、本校の児童は、教師の明快な指示による単純な作業や学習には、意欲的に取り組み、結果も出している実感が明らかとなった。また、国語における「書く力」、算数における発展的課題、学習全般における説明する力、表現力の弱さが課題となっている。今後は、考え方や解答への導き方など、自分の言葉で説明、表現できるような算数的活動を取り入れたり、活用力や表現力を養う問題を実生活の中で、どう生かしていくのかを意識的に指導していく必要がある。また、意欲がわく課題提示や学習形態を工夫するなどして、学び合いの中で児童の考えを高められるような授業づくりに取り組んでいく。</p>	<p>学習に対する主体性や、活用するために必要な力が十分に身につけているとはいえない状況があり、全国学力・学習状況調査からも、「活用」に関するB問題で力が十分に発揮できないという傾向が算数科において特に明らかとなった。</p> <p>昨年度は「学び合い」の学習を通して、全体として、進んで自己解決に取り組み、自分の考えをもととする児童や、自分と友だちの考えの共通点や相違点に気付く児童が増えた。</p> <p>授業研究の課題として、「子どもの表現力」と「子どもの考えを深めさせる教師の手立て」が挙げられたため、今年度はこの2点を焦点を当てて授業づくりに取り組んでいく。</p>
↓	↓	↓	
目標	<p>確かな学力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力の育成とともに、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。</p>	<p>確かな学力の育成のため、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身につけさせるとともに、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む指導を行い、子どもたちに自ら学習に取り組もうとする意欲を養う。また、個々の児童の学習状況に応じたチーム支援を行い、学習指導の工夫を図っていく。</p>	<p>確かな学力の育成のため、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身につけさせるとともに、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む指導を行い、子どもたちに自ら学習に取り組もうとする意欲を養う。また、一人ではできない、友だちと関わっていく中で得られる学びを創造し、子どもたちが思考を深めていくことを目指す。</p>
↓	↓	↓	
取り組み計画	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修会に積極的に参加し、個々の教員の指導力の向上を目指す。 授業公開を積極的にを行い、外部講師を招いて指導を受けることで授業研究を深め、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修会に積極的に参加し、個々の教員の指導力の向上を目指す。 校内研究において、年1回以上の授業公開、授業力向上講座などの研究授業など、外部講師を招いて指導を受けることで授業研究を深め、授業力の向上を目指す。 次期指導要領に向け、情報を収集すると共に、先行実施に向けた準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修会に積極的に参加し、個々の教員の指導力の向上を目指す。 校内研究において、教員1人あたり年1回以上の授業公開を行う。 授業研究会を始める前に、各学年・ブロックにて子どもたちの「学び合う姿」について検討を行い、研究全体会にて「学び合う姿」を決定する。そして講師を招いての年間7回の授業研究会を行う。
↓	↓	↓	
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> ①他校・他地域の取り組み例等も積極的に学び、再度今までの取り組みの見直しを行い、教員が研究会だけでなく日常的にお互いの授業を見合うなど、授業改善の体制づくりを整える。 ②学習形態の工夫により育んだ基礎的・基本的な知識・技能を生かし、これらを活用した思考力・判断力・表現力を深める授業の工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研究を通じて自身の授業力を向上させることが子どもの学力向上につながることを認識しながら、再度今までの取り組みの見直しを行い、教員が研究会だけでなく日常的にお互いの授業を見合うなど、授業改善の体制づくりを整える。 ②学習形態の工夫や学び合いの中で育んだ基礎的・基本的な知識・技能を生かし、これらを活用した思考力・判断力・表現力を深める授業の工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間7回の校内研究全体会では、研究授業における「子どもの表現を豊かにさせるための指導の工夫」「考えを深めさせるための指導の工夫」について意見を出し合い、研究講師の助言を受けながら教員個々の授業力向上を目指す。 ②「学び合う」学習を通して子どもたちが思考力・判断力・表現力を身につけることができるよう、また学びに向かう意欲を育めるよう、教師のアプローチ(指導技術)についてスキルアップをねらう。
↓	↓	↓	
評価	A	A	A
評価の根拠	<p>本年度の研究は、算数科において元横須賀市立大塚台小学校長 青木良紀氏を指導案検討から、研究授業まで一貫してご指導いただいた。昨年までの生活科・総合的な学習の時間の研究では、どうしてもその学年の研究になってしまう面もあり、全体で深めていくことが見えにくかった側面がある。算数科の授業研究は、児童の反応、教師のコーディネート力など、目に見えやすい研究となり、研究授業を積み重ねていくことで、それぞれの教師の課題が見え、ひいては授業力の向上につながっている。どのクラスの授業を見ても、学び合いを意識した学習を展開することで、問題を自力で解決することが難しく、友だちの考えを聞くことで「こうすればいいんだ」と気付く、「わかった!」とできた喜びを子どもが感じる姿が見られるようになってきた。教える子どもも教えた友だちが理解してくれたことで、達成感を味わうことができ、また、全体の前で話すことが苦手な子どもも、小グループでの話し合い活動を取り入れることで、自分の考えを話したり、交流したりする姿が多く見られるようになってきた。</p>	<p>本年度の校内研究は、昨年度から引き続き「豊かにかかわり合い、学び合う子にするために」～子ども同士が学び合う学習の創造を目指して～をテーマに算数科の研究に取り組み2つの研究の視点を設定した。まず、「①子どもが進んで考えを表現するために、問題設定の工夫、数学的活動を大いに取り入れた授業展開に努めた。②学び合いのある授業にする」ために、発達段階に応じた「学び合いの姿」を新たに設定した。学年ごとペアやグループなど小集団での活動や全体のかかわり合い活動を適宜取り入れることで、考えを広げたり、深めたりできるようになってきている。子どもたちのつづきや考えへの問い返しも意図的に行うようしたことで、友だちの数学的な見方・考え方のよさの共有化が図られたことも意図的に行う成果と言える。</p> <p>※指導要領改訂に向けての取組としては、道徳の特別の教科化に伴い、独自で他市の講師を招聘し道徳研修会を開催した。道徳の教科書づくりにも携わる講師の示範授業と講演は、次年度へ向けた新たな種となった。</p>	<p>本年度の校内研究は研究主題を「豊かに表現し、高め合える子」～学び合う学習の創造を目指して～更新し、算数科と専科(音楽・理科)および特別支援の授業研究に取り組んだ。</p> <p>昨年度の課題として「子どもの表現力」と「子どもの考えを深めさせる教師の手立て」が挙げられたことから、今年度の研究の視点を2つ、「①表現を豊かにさせるための工夫」②「考えを深めさせるための指導の工夫」とした。</p> <p>この2つの視点においては「板書計画・作成の工夫」「発問・問い返し」「練習の工夫」「キーワードの取り扱い方」「グループ設定の工夫」「意図的指名」を包括し、これらのポイントについて研究全体会では活発な意見交換を行った。</p> <p>この校内研究を通して、教師が「子どものつづきや考えを拾う」こと、「子どもの考えを引き出し子ども同士で共有すること」、「自分の考えの根拠を明らかにすること」、「友だちの考えを聞いて新たな考えを生む」といった子どもたちの学び合いのポイントを共有化できたことは成果である。</p> <p>特別の教科「道徳」について、本校教員が返子市教委の道徳教育研究会(本校会場)に参加し、教材の分析・活用や多角的・多面的な指導・道徳的価値の理解などを学べたことは、大変参考になった。</p>
↓	↓	↓	
課題	<p>2年間の算数研究を通して、課題や発問の工夫など、個々の教師の授業力は確かに向上したと言える。ただ、多くの考えを練り上げる共同思考の過程で、子どもたちの多様な考え方を関連付け、よりよい見方・考え方を見出し、統合的・発展的に考察処理していくところまで、教師のコーディネート力が高まっていない部分も見られた。発問や展開が混沌としてしまいう展開もあり、次年度へ向けた課題と考えられている。視点や目的を明確にすることで、自分と友だちの考えにつながりが生まれ、当事者意識が高まり相互の関係が密になる。それが本校の考えである「学び合い」の一つであり、共同思考の場面においても、追求していきたい。「学び合い」を意識した学習は、子ども同士のかかわりを豊かにし、学級集団としてのまとまりを強くする足掛かりになるものである。今後も引き続き学校全体で推進していきたいと考えている。</p>	<p>校内研究において教員同士で学び合い授業力が向上してきているという手応えは感じているが、子どもたちの「学び合い」の質を上げていかねばならない。子どもたちが互いに考えを伝え合い学びを深めていくこととする姿勢はついてきているが、個々の考えを「つなぎ」学びを「深めていく」手立てを研究していく必要がある。「主体的・対話的で深い学び」の視点から「学び合い」の質を向上させるためには、次のような課題がある。</p> <p>①児童に学習の見通しを持たせ、思考の流れを明確にさせる働きかけ。(導入の工夫や板書づくりなど)②教師の発問の工夫。(課題に興味を抱かせる。児童の考えの根拠を明らかにする。児童のつづきや考えを拾う等)③子どもに思考を深める観点を示す。(話す内容の簡潔性、明確性、的確性、一般性、能率性など)</p> <p>今後児童と共に学ぶ楽しさを感じさせながら、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりに取り組んでいきたい。</p>	

学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【 返子市立池子小学校 】

学校教育総合プランの柱	②	集団づくり
-------------	---	-------

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

学校及び学年等の実態	<p>長い坂道を使って登校する児童がほとんどで、朝から運動量が多く、給食の残食もほとんど無く健康的である。明るく元気で、互いの頑張りを認め合い、何事にも前向きに取り組もうとする児童が多い。また、児童のアンケート結果にも出ているが、規範意識が非常に高く、公共物を大切にしている気持ちは児童活動の中で伝統的に育まれている。運動会も縦割り班で活動したり、異学年活動が盛んで小さい学年の児童を高学年の児童が当たり前のように面倒を見ていて、少数ではあるが、集団になじめなかったり、自己肯定感があまり高くない児童もいるが、一人一人の実態や背景を共有する機会を設けている。</p>	<p>長い坂道を使って登校する児童が大多数で、朝から運動量が多く、給食の残食もほとんど無く健康的である。明るく元気で、互いの頑張りを認め合い、何事にも前向きに取り組もうとする児童が多く見られる。規範意識も高く、公共物を大切にしている気持ちは児童活動の中で伝統的に育まれている。運動会も縦割り班で活動したり、異学年活動が盛んで小さい学年の児童を高学年の児童が当たり前のように面倒を見ていて、少数ではあるが、集団になじめなかったり、自己肯定感があまり高くない児童もいるが、一人一人の実態や背景を共有する機会を設けている。</p>	<p>長い坂道を使って登校する児童が大多数で、朝から運動量が多く、給食の残食もほとんど無く健康的である。明るく元気で、互いの頑張りを認め合い、何事にも前向きに取り組もうとする児童が多く見られる。規範意識も高く、公共物を大切にしている気持ちは児童活動の中で伝統的に育まれている。縦割り班活動や、互いの思いやりを重視する委員会・学年・クラス活動を通して、全校児童が学年を越えてより密接な関係を作り、自他のよさを認め合いながら自己肯定感や自己有用感を高められるような教育活動を展開することができてきている。</p>
目標	共に学び共に育つ教育を推進し、温かい人間関係づくりを構築しながらお互いに認め合う集団づくりを推進する。	共に学び共に育つ教育を推進し、温かい人間関係づくりを構築しながら自己肯定感を高め、お互いに認め合う集団づくりを推進する。	共に学び共に育つ教育を推進し、温かい人間関係づくりを構築しながら自己肯定感を高め、お互いに認め合う集団づくりを推進する。
取り組み計画	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の実態を把握し、保護者、地域との連携を推進していく。 問題行動への未然防止、早期発見、早期対応に向け、関係諸機関などと連携をとりながら取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の実態を把握し、全体で共有しながら保護者、地域との連携を推進していく。 問題行動への未然防止、早期発見、早期対応に向け、関係諸機関などと連携をとりながら取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の実態を把握し、全体で共有しながら保護者、地域との連携を推進していく。 問題行動への未然防止、早期発見、早期対応に向け、関係諸機関などと連携をとりながら取り組んでいく。 今年度も学校支援地域本部事業としての「池小クリーンアップ作戦」を実施するとともに、げた箱やロッカーの整頓などを含めた校内美化について、保健指導・児童(会)指導と連携して取り組んでいく。
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 支援が必要な児童に対しては教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・心の教室相談員なども活用しながら組織的・計画的な対応を図る。 ② 保護者と学校が子どもの支援ニーズに対する共通理解を図り、協働して支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「いのち」を大切にすることを育むために、「いのち」のかけがいのなき、夢や希望を持つことの大切さ、人への思いやりなど、「いのち」や人との関わりを大切に、様々な教育活動の中で「いのちの授業」を推進していく。 ② 障害者差別解消法やヘイトスピーチ解消法などの趣旨を踏まえ、誰に対しても差別をすることがなく、自他のよさを認められる児童の育成を図る。 ③ 児童のよさを見つけ、認め励ましてほめる指導を繰り返すことにより、自己肯定感や自己有用感が高められるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業・学級活動、学年行事、全校行事の中で子ども同士が関わり合い、望ましい人間関係・集団を築いていけるよう指導していく。(縦割り班活動においては、今年度「縦割りふれあい集会」を開催し「達成感」を味わわせる) ② 「いのち」を大切にすることを育むため、学級活動・保健指導・防災訓練・交通安全教室・朝会等の様々な場面で「いのちの授業」を推進していく。 ③ 児童のよさを見つけ、家庭や地域と連携しながら児童を励ましほめる指導を行っている。 ④ 保護者・地域・関係機関と連携し、児童の教育的ニーズに応じた支援教育を推進していく。
評価	A	A	A
評価の根拠	<p>定期的に校内支援委員会を設け、支援が必要な児童についての実態把握、支援体制の確認を行ってきた。支援チェックシートについても、保護者と連携をとりながら、ケース会議を設け作成してきた。また、児童の発信する兆候、サインを見落とすことがないよう、職員全体で職員会議の中で共通理解するよう努め、問題行動の未然防止、早期対応に学校全体で取り組むことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動や、互いの思いやりを重視する委員会・学年・クラス活動を通して、全校児童が学年を越えてより密接な関係を作り、自他のよさを認め合いながら自己肯定感や自己有用感を高められるような教育活動を展開することができた。特に児童会活動では、前年と同じではなく、児童の主体性や自主性をより重んじた活動体制に変更し、豊かな人間性の育成に努める活動に取り組むことができた。 本年度は、県の体力向上サポーター事業で専門教員が派遣され、様々な学級の体育授業に入っている。教師の体育授業の指導改善にも寄与しており、確実に体育活動の充実が図られた。 定期的に学校だよりを作成、学校情報の発信に努めることができた。また、今年度より校長室だよりも不定期であるが、家庭・地域に向けて発信している。ホームページについても、より最新の情報を公開するよう心がけ、必要な情報を的確に発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動・学年行事・学校行事・5年生林間学校・6年生修学旅行などにおいて、それぞれの集団づくりの目標を達成することができた。 児童会(委員会)活動、クラブ活動、縦割り活動、1年生を迎える会、6年生を送る会、げた箱やロッカーの日頃の整頓など児童の主体性・自主性を重んじた活動の指導を行うことで、豊かな人間性を育む活動ができた。 縦割り班活動では今年度初めて「縦割りふれあい集会」を開催して、6年生のリーダーシップの下、それぞれの班において催し物を企画・運営してお客さん(児童・保護者)を楽しませることができ、子どもたちが達成感を味わうことができた。特にリーダーの6年生は下級生をまとめることで、大きな「やりがい」を感じることもできた。また、下級生は上級生の活躍振りに「憧れ」を抱いていた。 集団の中で関係づくりに課題のある児童については、保護者や関係機関と連携してその困り感に寄り添った支援を行った。
課題	<p>普通級に在籍している支援ニーズのある児童について、今年度以上にしっかりと見取りながら、個別の支援体制をより確立していく必要がある。スクールソーシャルワーカーや巡回支援チームとも連携を取りながら対応することはできていたが、次年度もより連携をして取り組んでいきたい。</p>	<p>学校評価に関わる地域アンケートの結果「児童の遊び方」「登下校のマナー」「交通ルール」等では、改善されているという評価の一方、まだまだ不十分といった声もある。真摯に受け止めて、次年度につなげていきたい。また、地域の実態(高齢化・自治会の機能低下・子ども会の廃止・空き家の増加)を鑑み、どのように学校と地域がつながっていくかと、地域の学校として何ができるかということが今後の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方のご協力をいただきながらの池子小学校としての「集団づくり」は、子どもたちが自他のよさを認め合いながら自己肯定感や自己有用感を高めてきていると感じている。 今後は、さらに子どもたちが意欲をもって「集団づくり」に取り組んでいけるよう、活動の内容や運営の仕方について工夫し、子どもたちがこれまで以上の達成感を味わわせたい。 集団での関わりに困り感をもつ児童の支援については、今後も丁寧なアセスメントを基に関係機関の協力を得て支援計画を作成し取り組んでいく。

学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【返子市立池子小学校】

学校教育総合プランの柱 ③ 学校組織づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>学校評価アンケートは、全項目で肯定的な高い回答をいただいた。「子どもの意欲が高まる楽しくわかる授業…」「子どもの学校での様子や学習状況を分かりやすく…」「諸問題への素早い対応…」「保護者の声を受け止め…」等についても、前年度より否定的回答が減った。保護者や地域の方々による学校への協力もすばらしいものがあり、地域の開かれた学校として受け入れられている。</p>	<p>昨年度は、教育相談コーディネーターが中心となって「クラス補助」「個別の課題」「休みの時間の個別指導」などを行い、クラス担任のサポートをしてきた。月に2回、巡回指導員およびSCがアセスメントを行い、必要な学習支援について担任や保護者にフィードバックしてきた。様々な学習支援を行ってきただけでなく、学習につまずきのある児童が学級不適應感を抱えていたり、登校しぶりや他者とのトラブルといった問題を抱えている課題も見えてくるようになった。</p>	<p>校内支援委員会は問題が起きてから動くのではなく、未然防止・早期対応に向け、諸問題に丁寧に対応しながら組織的な実践を行ってきた。教育的ニーズのある児童に対しては、支援シートを効果的に活用してきており、保護者の学校への信頼を高め、個々の児童理解・個別の課題解決へと結びつけることができてきている。学校づくりの視点では、保護者や地域からの意見・要望を受け止め、保護者・地域・学校が一体となって様々な取り組みが行えてきている。学校だよりやホームページを通じて、家庭・地域に向けて学校情報の発信にも努めている。</p>
<p>目標</p>	<p>・他校種、保護者、地域との連携に努め、本校の教育活動への理解と協力を得ながら、開かれた学校づくりをより推進していく。</p>	<p>・子ども一人ひとりの教育的ニーズに気づき、それに適した支援の内容、方法を考える。 ・児童の実態や指導のあり方について、校内支援委員会を開き、全職員で共通理解をはかる。</p>	<p>・子ども一人ひとりの教育的ニーズに気づき、それに適した支援の内容、方法を考える。 ・児童の実態や指導のあり方について、校内支援委員会を開き、全職員で共通理解をはかる。 ・他校種、保護者、地域との連携に努め、本校の教育活動への理解と協力を得ながら、開かれた学校づくりをより推進していく。</p>
<p>取り組み計画</p>	<p>・小1プロブレムや中1ギャップなどの現代的課題解消に向けて、幼、保、小、中で交流をしながら連携して取り組んでいく。 ・情報発信を適切に行い、保護者や地域の願いを把握しながら開かれた学校づくりを推進していく。 ・情報発信を適切に行い、保護者や地域の願いを把握しながら開かれた学校づくりをより推進していく。</p>	<p>・個別的ニーズのある児童を把握する。ニーズに沿った援助方法を校内支援委員会及びケース会議等で関係職員で検討する。 ・必要に応じて関係諸機関との連携を持ちながら支援を行う。</p>	<p>・個別的ニーズのある児童を把握する。ニーズに沿った援助方法を校内支援委員会及びケース会議等で関係職員で検討する。 ・必要に応じて関係諸機関との連携を持ちながら支援を行う。 ・学校情報を適切に発信すること、保護者や地域の願いを把握するためにご意見を伺う機会を増やし、地域に開かれた学校づくりをより推進していく。</p>
<p>実践内容</p>	<p>①幼・保・小担当委員会において、情報交換や公開行事参観などを通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童間の交流を推進し、今年度だけでなく、継続的な計画を立て連携を図る。 ②中学校の学校訪問や出前授業などに取り組み、中学校入学への不安を軽減させる活動を行い、個々に応じた支援体制の充実にも努め、今年度だけでなく、継続的な計画を立て連携を図る。</p>	<p>①校内支援体制の充実 ・継続的な支援体制を考え、個別指導の実施(休み時間・個別の課題) ・関係者で対応、全職員での支援(ケース会議、チーム支援体制) ・学習支援員、心の教室相談員、スクールサポーター、教育ボランティアの活用 ②関係諸機関との連携 ・スクールカウンセラー・巡回指導員による指導、支援教室の実施 ・児童相談所、子育て支援課、療育教育総合センター等との連携</p>	<p>①支援教育の推進 教育的ニーズをもつ児童の支援について、その進捗状況を校内支援委員会にて定期的にチェックし見直しを行う。 巡回支援チーム等の関係機関の協力を得て支援計画を立てるとともに、全校体制にて支援にあたるよう、教職員が共通理解する支援会議を定期的実施する。 ②学校だよりやホームページ等を通して教育活動を公開し、学校評価アンケートや学校関係者評価委員会、学校議員会などのご意見を参考に「地域と連携した教育活動を展開する」</p>
<p>評価</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>評価の根拠</p>	<p>できる限り、地域の会合や祭りなどの行事に参加するように心がけ、地域の方とのコミュニケーションを深め、お互いの名前が分かるような関係づくりに努めた。幼・保・小の連携では、昨年度1園の参加だった「いけしょうへようこそ集会」に4園も幼稚園の参加があった。学校だよりも近隣の幼稚園に届けるようになったり、お互いの運動会を参観するなど、昨年より確実に距離は縮まった。中学校との連携は、学校訪問、出前授業を行ったが、例年以上の取り組みを実行するには至らなかった。授業においては、地域の方々やズシップの方々を各学年においてゲストティーチャーとして、招聘することができた。</p>	<p>・校内支援委員会のメンバーは、昨年度より機動的、実践的に動けるよう少人数としている。問題行動が起きてから動くのではなく、未然防止、早期対応に向け、教育相談コーディネーターが中心となりながら諸問題についていかに対応し、組織的な実践を深めることにつながっている。教育的ニーズのある児童への支援も充実し、支援シートを効果的に活用した子ども及び家庭、保護者への支援は、学校への信頼を高め、個々の児童理解・個別の課題解決へと結びついている。 ・個別の学習支援が必要な児童については、校内支援委員会や職員会議で情報を共有しながら、授業時間内の取り出での学習指導を行っている。放課後学習サポート「いけごや」では、今年度も継続して個別の学習支援を行ってきた。「いけごや」を楽しみにしている児童もおり、担任だけではなく、いろいろな教員がいる児童に関わりながら学習指導を行うことは、児童の学習意欲の向上や居場所づくりの面でも効果が上がっている。</p>	<p>・支援教育については、児童や保護者の気持ちに寄り添い、関係諸機関との連携して支援計画を立てて丁寧に取り組んできた。 ・日頃の児童観察や保護者からの連絡、また「生活アンケート」から児童の実態をつかみ、教育的ニーズのある子どもの早期対応と問題行動の未然防止に努めた。 ・地域の方をゲストティーチャーに招いての出前授業を実施することや、お祭りなどの地域行事にできる限り教職員が参加することなどから、地域の方とのコミュニケーションを深め、地域の学校としての関係づくりに努めた。 ・「焼き芋大会」などPTAの主催する新しい行事を実施し、子どもたちが「自分たちが大切にされている」と感じることに出来る機会を、保護者や地域の方と一緒にもつことができた。</p>
<p>課題</p>	<p>小中連携の方策について、小中で話し合い、どんな取り組みが可能かを考えていくことが課題となる。また、お互いの学校の授業参観などの交流、クラブの交流なども図っていきたく思っている。</p>	<p>本年度も校内支援委員会や、職員会議を通して情報を共有しながら、教育的ニーズのある児童について、できるだけ個別の支援体制を組んでいたが、次年度は、市の緊急財政対策の一環で職員の削減が予想される。人員の制約の中で、個々のケースについて何が出来るか、何が必要な支援なのかをしっかりと見極め、学校として対処していかなければならない。本年もスクールソーシャルワーカーや巡回支援チームとも連携を取りながら対応することはできていたが、次年度もより連携をして取り組んでいきたい。</p>	<p>・支援教育については、今年度も保護者・関係機関と連携し個々の児童に対してきめ細かな対応を行ってきた。次年度も引き続き、定期的な支援の見直しを行いながら丁寧な支援を行っていく。 ・今年度、保護者や地域の方々のご意見やご協力をいただきながら、学校行事の見直しや新しい取り組みを行うことができた。次年度も引き続き、児童や学校を取り巻くみなさんのご意見をいただきながら、地域に愛される「池子小学校」の形を探ってきたい。</p>

学校教育総合プラン実施計画・評価一覧 2016(H28)～2018(H30)

【返子市立池子小学校】

3つの柱	項目	行動プラン	3年間を見据えた取り組み内容 (できるだけ具体的な内容で記載する)	成果	重点	成果	重点	成果	重点	項目別	項目別	項目別	柱別	柱別	柱別
	実施計画の重点等			2016	目標	2017	目標	2018	目標	2016	2017	2018	2016	2017	2018
I 授業力の向上	1 授業力の向上	① 「確かな学力」を育むための指導の充実	日常的にお互いの授業を見合うなど、授業改善の体制づくりを整え、思考力・判断力・表現力を深める授業の工夫改善を図る。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		② 授業研究の充実	授業研究の取り組みを通して、学校全体で児童に身につけたい力を具体化させながら授業力向上を図る。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	80%	80%	80%			
		③ 学習規律の確立	学習規律について全教職員で共通理解をもち統一した指導を繰り返し、達成できたことについて、認めほめる指導を続けていく。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
	2 多様な教育活動の充実	① 読書活動の推進	学校図書館連携・支援サービスモデル校として、より学校図書館の活性化を目指す。(27～28年度モデル校)	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		② 防災・減災教育の推進	子ども達が安心して学校生活が送れるよう教育施設整備及び通学路の安全確保をすると共に様々な災害を想定した避難訓練や安全教室を実施する。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		③ 食育と体力づくり・健康教育の推進	健康の維持・増進に向け、発達段階に応じた健康教育や子ども達の食に対する体験学習活動をはじめとした食育を推進する。	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>				75%	73%	73%
		④ 情報教育の推進	ICTを積極的に活用した授業作りを考え、発達段階に応じた情報機器を活用し、適切なメディアリテラシーの育成を図る。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		⑤ 福祉教育の推進	体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常に生きる福祉教育の推進しながら、人権意識の向上を図る。	A	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	73%	71%	71%			
		⑥ 環境教育の推進	取り組む事項と目標を明確に示し、関係諸機関との連携を深め、子ども達が積極的に活動できるような環境教育の推進を目指す。	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>						
		⑦ キャリア教育の推進	集団に貢献する大切さと責任を持って仕事をする大切さや楽しさを知らせ、奉仕の精神や勤労意欲を育むとともに、様々な職業の外部講師による授業を行う。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
II 集団力の向上	1 認め合う集団づくりをめざして	① 基本的な生活習慣の育成	学校でのきまりや過ごし方について、子どもたちの実態や発達段階に応じた指導と子どもたちが自己肯定感・自己有用感をもてるような指導に取り組む。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		② 豊かな心を育む教育の推進	児童会活動や異学年集団等において、児童が主体となって取り組む活動を充実させ、他者を思いやる心や、互いに支えあい、助け合う態度を身につけさせる。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	80%	80%	80%	80%	80%	80%
		③ 体験活動の推進	様々な体験活動を通して課題解決的な学習を進め、宿泊活動を通して他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会にする。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
④ 問題行動等への対応の推進		支援が必要な児童に対しては教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・心の教室相談員なども活用しながら組織的・計画的な対応を図る。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>							
III 学校組織力の向上	1 支援教育の推進	① 支援教育の推進	ニーズを持つ児童も安心して過ごせる学級集団を育てるための環境整備に取り組むとともに、アセスメントをもとに児童のニーズを適切に把握し、校内支援委員会やケース会議を通じて保護者と共に「支援シート」を作成し組織的な対応を進める。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	80%	80%	80%			
	2 安全・安心に向けた取り組み	① 学校安全の推進	防災・防犯マニュアルの周知徹底を図るとともに、実際の災害場面を想定した避難訓練・不審者対応訓練・安全教室の計画と実施に取り組む。また、学校が緊急避難所となった際の人的組織編制と施設整備の充実を図る。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	80%	80%	80%			
	3 研修・研究の推進	① 研修事業の充実	個々の経験に合った研修に積極的に参加し専門的力を向上させるとともに、新採用研修など学校内においてOJTを組織的に推進する。	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>						
		② 教育に関する業務の標準化に向けた取り組み	校務支援システムを有効に活用しながら、あゆみ、出席簿、要録などを作成し、事務処理等が効率的に行えるように取り組む。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	70%	75%	75%	73%	78%	75%
		③ 信頼に基づいた指導の推進	いじめ防止基本方針に則り「心のアンケート」を行い、いじめの未然防止や早期発見、迅速かつ適切な対応を図り、信頼に基づいた指導推進担当者などを中心に、組織的な取り組みを進める。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
4 開かれた学校づくり	④ 教育の情報化の推進	発達段階に応じたICT機器を活用した授業実践を通して、情報機器の活用能力の育成を図るとともに、授業の記録や評価等にいかすよう努める。	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>							
	① 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	幼・保・小担当者会や中学校の学校訪問や出前授業を通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童・生徒間の交流を推進し、継続的な計画を立て連携を図る。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	70%	80%	70%				
	② 地域との連携の推進	学校だよりやホームページ等を通して教育活動を公開し、地域との連携による学校づくりを目指す共に、学校評議員会、学校関係者評価委員会を中心に教育活動の機会を充実させる。	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>							

％は、Sを5、Aを4、Bを3、Cを2とし、項目数×5で割った数値

評価基準 S・・・想定以上の顕著な成果が見られ、行動プランが達成された(100%～90%程度)
B・・・課題はあるが一定の成果が見られ、行動プランが概ね達成された(70%～30%程度)

A・・・想定していた成果が見られ、行動プランが達成された(90%～70%程度)
C・・・成果が見られず、または一定の成果が見られたが、行動プランは達成されなかった(30%～0%程度)